



第13回全国中学校（教科）柔道指導者研修会

第13回全国中学校（教科）柔道指導者研修会（主催＝日本武道館・全日本柔道連盟、後援＝スポーツ庁、勝浦市教育委員会）は、令和4年10月14日から16日までの3日間、日本武道館研修センター（千葉県勝浦市）において、講師9名と参加者32名が集って開催された。本研修会は、中学校保健体育武道（柔道）授業の充実に向けて、柔道を専門としない中学校保健体育科教員の指導力向上に資することを目的として開催している。本年度も昨年度と同じくコロナ禍の影響から、募集定員の縮小や開催14日前からの検温、換気や手指消毒等、感染症防止対策を徹底しての実施となった。

1日目

開講式では、はじめに吉川英夫日本武道館理事・事務局長が挨拶に立ち、勝浦市を紹介した後、「授業で先生方が柔道を通して子供たちに何を伝えたいか、それを考えるような研修会であってほしいと期待しております。3日間しっかりと研修をお願いいたします」と述べた。

なお、中里壮也全日本柔道連盟専務理事は公務の都合で開講式後のオリエンテーションの際に駆けつけ、挨拶をしていただいた。

■講習1「教育に生かす武道の心」：田中裕之講師
武道全般の説明から入り、「なぜ柔道をや？柔道で子供たちに何を教えるか？何を学ばせたいのか？」

と問いかけ、参加者各自の指導に対する思いや考えを再確認させた。講道館柔道創始者、嘉納治五郎師範の言葉である、個人的な「精力善用」から社会的な「自他共栄」への確立は、学習指導要領の目的と同じであると説く。最後に「柔道で子供たちに何を学ばせたいのか、ということをしっかり」と掲げて授業に取り組んでいただきたい」と要望した。



講習1「教育に生かす武道の心」

■講習2「柔道授業の魅力を考える」：木村昌彦講師
冒頭、サッカー指導者のロジェ・ルメール氏の「我々は学ぶことをやめたときに、教えることをやめなければならない」という言葉を紹介し、我々指導者は様々な変化に対応するためにも学び続けることが重要であると強調。講義では、「魅力とは？」「Pros and Cons（賛否両論）」「武道の授業」「学習の成長段階」の4項目に沿って、考えるヒントとなる指導論・方法や他競技の情報など

を随所に織り交ぜながら、楽しく魅力的な柔道授業について解説した。



講習 2「柔道授業の魅力を考える」

■講習 3「講道館柔道・礼法」：向井幹博講師

授業の第 1 時限「導入」部分で指導することとなる柔道の歴史や基本的な指導内容を、映像を観ながら解説。特に、相手がいるからこそ自分が技能を習得できることなど、相手への感謝の重要性、その思いを形に表す礼法の重要性を説き、全員で基本となる立礼と座礼を実習した。



講習 3 で座礼を指導する向井講師

2 日目

■講習 4「基本的な指導」：高橋健司講師

中学校保健体育・柔道授業での指導内容、そのエキスを伝授。基礎・基本、専門用語の確認、安全面の配慮、効果的な授業の進め方、留意点等について説明。その後、全員で改めて礼法の確認、



講習 4「基本的な指導」の様子

基本となる自然体・自護体の姿勢や組み方、進退動作、崩し、体さばきなどの動作確認、指導方法を実習した。

■講習 5～9

「受け身 基礎・応用」：前瀧大吾講師

「投げ技 膝車」講師：山根友樹講師

「投げ技 体落とし」：濱岡睦月講師

「投げ技 大腰」：濱岡睦月講師

「固め技 基礎・応用」：高品亮輔講師

講習 5～9 では、国際武道大学の学生で柔道初心者や未経験者の 18 名が参加し（講習 4 から参加）、受講者と共に 8 グループに分かれて授業での各指導方法などを、それぞれ生徒と先生役になって行う実習に取り組んだ。講師は全員、中学校で柔道授業を担当している現場の教員であり、日頃から工夫し実践している方法で、注意点や留意事項などを盛り込みながら、柔道が専門ではない教員にも分かりやすく授業現場で導入する際の参考となる指導方法、細かいスキルを指導した。



講習 5「受け身 基礎・応用」の様子



講習 6「投げ技 膝車」の様子



講習 7「投げ技 体落とし」の様子



講習8「投げ技 大腰」で指導する濱岡講師（手前）



講習9「固め技 基礎・応用」で指導する高品講師

■意見交換会

高橋健司講師の進行で、本日の礼法から各指導法の研修を振り返り、意見交換会を行った。今回は授業展開や取り組み方ではなく、指導法のスキルを中心に学ぶことに焦点を絞って行った旨、説明があった。

3日目

■講習10「評価の実際」：田中裕之講師

4人1組の8グループに分かれ、「膝車」を課題に、生徒と先生役になって評価実習を行った。改めて柔道で何を教え、何を学ばせるのか？を常に意識して、「指導と評価の一体化」に基づく適正な学習評価の在り方を確立すること、そして、本当に大切なことは、常に真剣勝負で「保健体育の指導を通して子供たちに何を伝えるか、何を育てるか、子供たちや保護者とのような信頼関係を築



講習10「評価の実際」で膝車を評価する様子

くか」ということであり、それは、「保健体育科教員の矜持（プライド）」であると締めくくった。

■総括：高橋進講師

全体を振り返り、高橋進講師が総括を行った。高橋講師からも授業に取り入れてみてはどうかと、2人1組での攻防ゲームがいくつか紹介されて実習し、最後まで楽しい研修となり、楽しく授業を展開すること、工夫して取り組むことが大事であることを示した。



総括で「攻防ゲーム」を楽しむ受講者



閉講式では、初参加の福島県・稲本重徳氏が受講者代表で修了証を受け取り、講師を代表して高橋進講師が講評を述べ、和田健日本武道館振興課長が主催者挨拶を行い、全日程を終了した。

受講生の声

福島県 会津若松市立第四中学校 稲本重徳氏



「大腰」に挑む稲本氏

専門は陸上競技で柔道は未経験。今年、異動で柔道部顧問となり、会津地区の専門委員長に。同時に福島県中体連の役員にも就任。本研修会初参加。参加のきっかけは、今年8月福島県で全国中学校大会が行われ、役員として参加の際、本研修会の話聞き、参加条件で柔道専門でない教員が望ましいとい

うことを知り、勉強になるかと思い、参加したとのこと。

「今まで柔道授業が無い学校が多かったのですが（過去1回経験あり）、今年異動した学校ではこれから柔道の授業が始まるので、丁度いい機会でした。研修会のプログラムがかなり体系化されていて理解しやすく、実習でも丁寧にご指導いただき、柔道未経験でも理解でき、そのまま授業に活かせる内容だと思い、感心しました。研修会に参加し、自分だけでも授業ができそうだと思う、試してみたいと思いました。本当に素晴らしい研修会だと思います」